吉田統括監だより

第3号

町民の皆さまこんにちは。東北生まれの私にとっては人生で経験したことが無いような暑い夏となりましたが、皆さまに於かれましてはいかがお過ごしでしょうか？熱中症などが多くなる時節柄、ご自愛くださいますようお願いいたします。

さて、今回は『イメージの共有』について、皆さまと共に考えて参ります。

仕事がら、私は全国各地の先進地域『いわゆる頑張っている地域』と連携を図って参りましたが、頑張っている地域には幾つかの『決定的』な特徴があると感じています。

1）町民さん・町内事業者・町内団体・役場が、それぞれの立場で役割を積極的に担い実践していること。

2）年齢・性別・役職や立場に関係なく、話し合う場や協力する場が多数存在すること。

3）価値観の多様性が受容され、多世代でゆるやかな連携ができていること。

4）若者や女性が自立的に活動できていること。（一方的に命令された活動では無いこと。）

5）情報開示と共有が進んでいること。（特定の人間のみでの地域振興ではないこと。）

6）向かうべき先（ゴール『イメージ』）が明確であり、かつ町内で共有出来ていること。

逆説的ですが、上記事項への該当が少なければ少ないほど、地域活力が低い傾向にあると思われます。

それでは、なぜ『イメージの共有』が必要なのでしょうか？

答えは非常に簡単です。例えば、『登山』を思い浮かべてください。

登山は、どんなパーティー（仲間）と組むか？どんな装備が必要か？いつ登るか？費用がいくらかかるか？など様々な準備が必要ですが、そもそも『どの山に登るか』を仲間同士で決めておかないとその先の準備が進みません。

仮に、仲間同士で登る山を決めずに、準備を進めた場合、北極近くと赤道近くの山では、全く準備の仕方が異なる為、最終的に準備不足で確実に『遭難』することでしょう。

一見、笑い話の様に思われるかもしれませんが、全国的には民間企業や行政団体を問わず、多数の組織が『登る山のイメージを共有せず』バラバラに登っていると言わざるを得ない状況が多々見受けられます。

それでも、これまでの様な右肩上がりの社会構造であれば、『経験則』で登り切るかもしれませんが、誰も経験したことのない急激な右肩下がり社会であればどうでしょうか？

経験の無い山を、バラバラの意識によるバラバラの準備で登れば、やはり確実に『遭難』に至ることでしょう。

広報『6月号』に記載した『錦江町版百人委員会』はまさに、『イメージ共有の場』であり、『考える場』だということをご理解ください。

来年度から本格稼働する『百人委員会』を今年度は1テーマ限定で試験運用しますので、多くの町民さまのご応募をお待ちしております。

当町で暮らす方々は間違いなく『錦江町』丸の乗組員（運命共同体）ですから、全員に『百人委員会』応募の資格がありますので、どうぞお気軽にご応募願います。